

認知症による「もの忘れ」

「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」は区別のつきにくいものですが、年のせい？と思ってもそのままにせず、医療機関を受診しましょう。体験したこと自体を忘れるなど、日常生活に支障をきたす様子が見られたら認知症が進んだ状態です。

加齢によるもの忘れ

忘れたことを自覚している



目の前の人が誰であるかはわかるが、名前が思い出せない



食べたことはわかるが、何を食べたか思い出せない



曜日や日付を間違えることがある



物の置き場所を思い出せないことがある



認知症によるもの忘れ

忘れたことを自覚できない



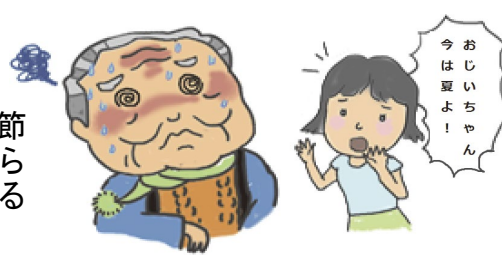
目の前の人を誰だかわからない



食べたことを忘れている



月や季節がわからなくなる



置き忘れ、紛失が頻繁になるが自覚がない



「認知症によるもの忘れ」がみられる。

受診については10頁へ